

じいちゃんの米通信



第12号 2010年4月発行

「土入れ作業」



水稻は、田んぼに行く前に箱（60cm×30cm）の中で育てます。

写真の作業は、この箱に、土を入れていくところです。

さらにこの作業では、その土を均等にするため、専用蓋で一枚一枚、土の上から、アイロンのようにプレスします。

なぜ、この手間のかかる作業をするか説明します。

- 種まきが、均等になります。
- 発芽も揃います。
- 生育も一定します。

この結果、「同じ草丈」、「同じ太さ」、「同じ重さ」が揃った苗ができるということです。この「同じ」が重要なポイントです。

田植え後、田んぼでの水と肥料管理、病害虫対策をする上で、この「同じ苗」であることが、一律の対策で済むことが重要です。もし、個性を持った苗の場合は、個別の管理をしなければなりません。何億本の苗の個別管理を想像してみてください。???

だから、この作業の重要性がわかっていただけたと思います。

「ハウス建て(ここまでやるんです。)」



今年は、新しい育苗ハウスを2棟新調しました。土入れ作業の後には、種まきをして、このハウスで、約1か月かけて育てます。

ここでも重要なキーワードが、「同じ」です。

床面の高さが均一（同じ）であること。ハウスの高さ、骨格の広さ、ビニールの透明度すべてにおいて、同じであることが、必要です。これによって、均一な温度、均一な光合成、均一な生育環境を整備することが重要なのです。

写真の中央をみてください。なにやら3本の足の付いた黄色いカメラの様な物が写っています。これは測量器具です。

これで、床面の水平、ハウス骨組みの水平、骨格の広さを測量するんですよ。ここまで、種籾で厳しい選別をし、土入れで手間をかけてきたわけですから、ハウスでも手抜きは一切なしです。

福島県安達郡大玉村大山字明路内24番地

「じいちゃんの米」 伊藤一男：TEL 0243-48-2391（FAX兼用）